

糖尿病患者セルフケア能力測定ツールを活用した看護システムの開発

研究者所属・職名： 医学系研究科保健学専攻・教授

ふりがな しみず やすこ

氏名：清水 安子

主な採択課題：

- [基盤研究（B）「糖尿病患者セルフケア能力測定ツールを活用した外来患者用ICT看護システムの開発」（2016-2020）](#)
- [基盤研究（C）「糖尿病患者のパターンマネジメント援助指針と支援ツールの開発」（2011-2015）](#)

分野：臨床看護学、慢性疾患看護学

キーワード：セルフケア、糖尿病、患者教育、チーム医療、ケア評価指標

課題

●なぜこの研究をおこなったのか？（研究の背景・目的）

糖尿病患者は、重症化を防ぐために毎日の生活に食事療法や運動療法を取り入れる必要があり、行動変容が求められる。しかし、糖尿病や自己管理に関する知識提供だけでは行動変容が難しい場合が多々あり、看護師は、様々な視点からアプローチを行っている。しかし、こうした援助は患者の特性に合わせた個別的な援助となるため、どのような視点で援助が行われているかが明確にされておらず、看護ならではの援助が看護師にも他の専門職にも見えにくい現状がある。

そこで、セルフケア能力という視点から糖尿病患者の看護を評価できる指標を作成することで、ケア評価が可能となり、援助による効果が明確になれば、看護ならではの援助の見える化が可能となり、他の専門職との協働もより充実したものになると考えた。

●研究するにあたっての苦労や工夫（研究の手法）

セルフケアは、糖尿病のための自己管理だけでなく、看護では、糖尿病をもちながらもその人らしく人生を生きることも重視するので、そのためのセルフケアも含めた概念として捉えることで、看護ならではの援助の見える化が可能になると考えた。そして、実際の看護援助の中で看護師がどのような視点で患者のセルフケア能力を捉えているのかを質的研究で明らかにすることから研究を進めた。



図1 その人に内在するセルフケア能力に着目した支援

糖尿病患者セルフケア能力測定ツールを活用した看護システムの開発

研究成果

- どんな成果がでたか？どんな発見があったか？
看護師が援助の際に捉えるセルフケア能力は図2に示す8つの要素があることが分かった。

そして、糖尿病患者のセルフケア能力測定ツールを開発し、信頼性・妥当性の検証でき、糖尿病患者のための看護の評価指標が明確化された。

また、図3に示すように構造方程式モデリングを行いセルフケア能力の要素間の構造を明らかにした。糖尿病をもつ自分の身体を自分のこととして捉える【身体自己認知力】が【自己管理の原動力】や【糖尿病とともに自分らしく生きる力】に影響することなどが明らかとなった。

看護師への教育プログラムを実施した結果、セルフケア能力の視点で対象を多角的に捉えることで、対象理解の深まりや援助の方向性の明確化につながる事が明らかとなった。



図2 セルフケア能力の8つの要素

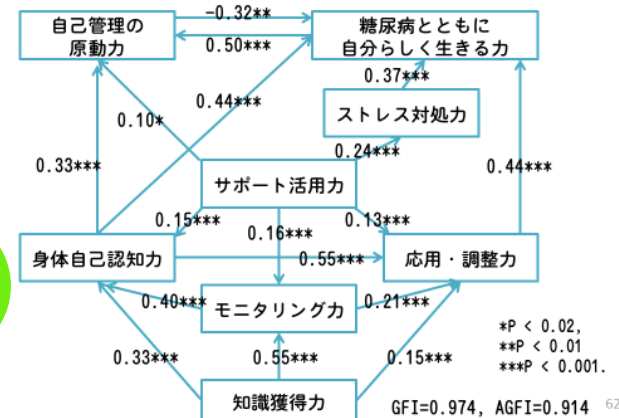


図3 セルフケア能力の構造モデル

今後の展望

- 今後の展望・期待される効果

現在セルフケア能力測定ツールのアプリを開発し、開設したHPよりダウンロードできるようになっている。また、セルフケア能力測定ツールの活用方法について、看護師への教育プログラムを実施し、その効果を検討している。

セルフケア能力の8つの視点から患者を捉えることで血糖の良し悪しや行動変容の有無だけでなく、対象を多角的に捉えることができ、支援のレポーターが広がるので、セルフケア能力と看護援助の在り方とのつながりを明確化していくことが今後の課題である。



図4 セルフケア能力測定アプリとHPの開設